

震災時における現在地の安全性について

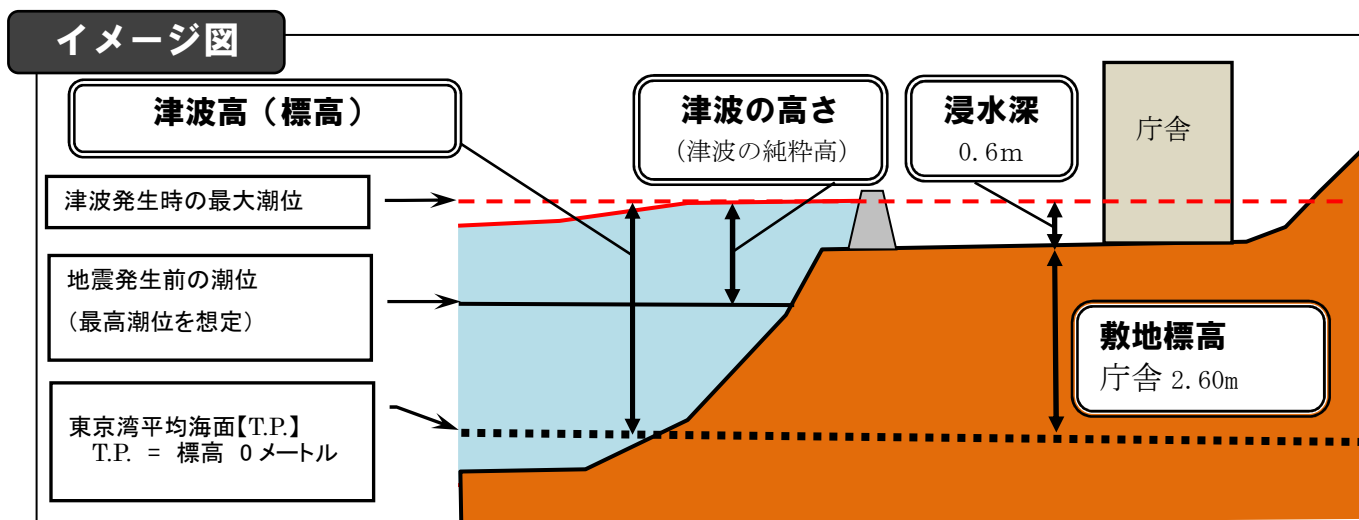
1 南海トラフ巨大地震の被害想定結果について

(1) 津波高等について（三原市最大値 公表済）

推計結果	内閣府の想定 (H24. 8)	広島県の想定 (H25. 3)
最大震度	震度 6 強	震度 6 強
最大津波高（標高）	3m	3.2m
津波到達時間（最大波）	388 分	332 分

(2) 津波高とは

津波高 = 地震発生前の潮位（満潮） + 津波の高さ（津波の純粋高）



※津波高は標高＝東京湾平均海面 T.P. (Tokyo Peil) で表示

※T.P.とは、全国の標高及び海拔の基準となる海水面の高さ

T.P. 0m = 標高 0m = 海拔 0m

2 津波の対応について

(1) 既存倉舎の場合

(ア) 想定される浸水の深さ(0.6m) の場合には、地下の電気設備は、既存防潮板で対応できます。

(イ) 上記の想定を超える場合の対策については、別途エネルギーセンター棟の増築が必要です。

(2) 新倉舎（新築）の場合

(ア) 1階床レベルについては、ある程度自由に設定することが可能です。

(イ) 機械室等を上階に設置することで、高い安全性を確保することが可能です。

3 液状化の対応について

(1) 既存倉舎の場合

耐震改修時に杭の補強を行うので、建物本体は液状化による被害は受けません。

(2) 新倉舎（新築）の場合

新築の設計時に液状化を考慮しますので、建物本体は液状化による被害を受けません。